医療法人　幸生会
琵琶湖中央病院

病院だより

第 68 号
2016/8/15

在宅療養を支える仲間のための勉強会

去る７月１４日(木)午後３時より、当院５階研修センターにおいて「在宅療養を支える仲間のための勉強会」を開催いたしました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、45 名の皆様にお集まりいただきました。ありがとうございました。

在宅療養・介護に携わっている皆様を対象とする勉強会の第一回目として、荒堀管理副院長より『琵琶湖中央病院の役割と機能について』、地域連携部　上嶋係長より『在宅生活者の緊急入院手順について』、診療部 藤田潤医師（京都大学名誉教授）より『高齢者の尿路感染』と題しての講演がありました。

勉強会のメインテーマであった『高齢者の尿路感染』では、藤田医師が自己導尿を行う際の注意点やバルーンカテーテルの管理方法を説明し、会場の皆様も真剣に聞き入っておられました。機能性尿失禁（膀胱・尿道などの下部尿路に異常がなく、認知症や麻痺のために失禁してしまうこと）の話では、リハビリテーションや衣服の改良、トイレの改良等により対策できると、リハビリテーションの重要性についての説明がありました。

参加された皆様からは、「地域連携部の役割がわかった」「病院の機能や理念、方針を知ることができた」との感想を頂き、勉強会への満足度も高いものとなりました。また、「今後の在宅医療の重要性について学ぶことができた」との声も聴かれ、知っているようで知らなかった在宅とのつながりを学ぶ機会となったように思います。「在宅生活者を支えていくための他職種連携をより進めていきたい」と考える方が多くおられ、膳所地域や大津圏域の他職種連携の課題も浮かび上がりました。

アンケートにおきましては、病院への率直な質問や疑問、次回の講演のテーマ等多くのご意見を頂きました。「看護師同士やリハビリスタッフ同士の連携など、地域における同職種間の交流をより幅広くしていきたい」というご意見については、当院の今後の地域連携の取りくみの中で生かさせていただきます。普段の業務の中では、書面や電話でのやり取りが多く一方通行の情報交換になりがちですが、在宅療養・介護に携わる皆様との顔の見える連携、双方向の連携について勉強会を通して進めていけたらと思います。

この勉強会は４回シリーズで､次回は９月８日(木)に開催を予定しています。ご参加お待ちしております。今後も、皆様に安心して過ごして頂けるような、地域づくりの一端を担っていきたいと思います。

地域連携部

リハビリテーション科に新部長就任

平成 28 年７月１日付で琵琶湖中央病院リハビリテーション科部長に赴任しました加藤洋と申します。

私は昭和 62 年大阪医科大学を卒業、同大学の整形外科に入局いたしました。大学付属病院で１年間研修の後、済生会茨木病院、三島救命救急センターなど研修いたしました。様々な病院での研修の中で、手術だけではなく後療法、リハビリテーションがとても大切であることを知り、興味を持つようになりました。大学に帰ってからはリハビリテーション科へと移動し、臨床、教育を中心に携わってきました。

このたび縁あって琵琶湖中央病院に赴任することになりました。病院理念にあるように大津市をはじめとする地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう、「ここでリハビリをして良かった。」と患者様、ご家族様に思っていただけるように、何かのお役に立てるように努めていく所存です。

まだまだ修行中の身であります、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

リハビリテーション科　加藤洋

（リハビリテーション科専門医・指導医、整形外科専門医）